

一 西 だ よ り

豊川市立一宮西部小学校通信

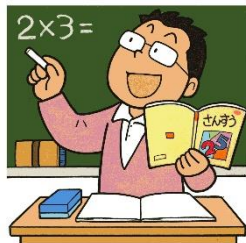
令和6年4月6日 第3号

発行；校長 村上謙一

学校評価に表れた子どもの意識

本校では学校評価として、1学期と2学期の2回、児童(児童は3～6年で調査)、保護者(全)、教職員(全)を対象にアンケート調査を行い、その結果をフィードバックして新たな学校運営に生かしています。学校評価の分析結果はお子様を通してご家庭にお知らせするとともに、学校ホームページにも掲載しています。また、学校運営協議会においてもご検討をいただいています。

令和5年度は教科担任制の取組を進めました。子どもの多面的な見取りを行い、これまでよりきめ細かな支援を行うことが目的です。子どもたちにとって、この取組が意味あるものであったのか、本調査結果から検証しました。



① 「担任以外のいろいろな先生が来て授業を行うことについてどう思いますか」 (以下4から1選択回答)

- ・とても分かりやすかった 48.8%
- ・まあまあ分かりやすかった 41.6%
- ・これまでと変わらない 8.4%
- ・ちょっと分かりにくい 1.2%

② 「多くの先生が授業をしてくれることについて、どう思いますか」

(以下4から複数回答)

- Aたくさん褒めてもらえる 129人
- B相談できる先生が増える 187人
- C自分のことをわかってくれる先生と出会える 161人
- A B Cのいずれか複数に☑ 317人
- その他 17人

(その他の記述内容は以下の通り)

「特になし」「変わらない」「授業が楽しい」「わかりやすい」「いろいろな先生と仲良くなれる」「いろいろな先生の意見が聞ける」

子どもの多面的な見取りを行い、きめ細かな支援を目的とした教科担任制については、これまでより大幅に教科の範囲を広げて、2年生では2学期から、3～6年生では1学期から取り組みました。例えば、6年生は学級担任が行う授業は算数(5)・道徳(1)・学活(1)・総合(1)で、週に8時間のみです。それ以外の授業は他の6年生担当と専科の先生が行いました。先生方の教科担任制に取り組んだ印象は次の通りです。

- ・学年全員の子どもたちと授業を通した関係作りができて、ほかのクラスの子どもにも気兼ねなく支援や指導ができた。
- ・多くの子どもと関わるので、子どもの様子の情報交換が大切になった。先生同士の会話が増えて、何でも相談して進めることができた。
- ・保護者と連絡を取るべき時に、担任が不在の時も気軽に連絡ができた。
- ・自分では見えなかった子どもの良さを、ほかの先生の視点から知ることができた。
- ・同じ授業を3回繰り返すことができたので、授業の教材理解が深まった。よい授業ができる技量が高まった。
- ・受け持ち教科の数が減ったので、授業準備の手間が減り、業務削減につながった。

子どもの声を分析すると、①の設問では「とても分かりやすかった」と「まあまあわかりやすかった」を合わせると90%を超えています。また、②の設問では、「たくさん褒めてもらえる」「相談できる先生が増える」「わかってくれる先生と出会える」のいずれかを選ぶ児童が大多数で、我々がねらいとした児童の多面的な理解が、子どもにとっても良い方向で実現していることが表れています。

これまでの当たり前を問い直し、子どもを主語にした学校づくりが求められる現在、私たちは失敗を恐れず新しい取り組みに使命感をもって挑戦する「エージェンシー」のある行動が求められています。多くの先生が関わることで子どもにとっての幸せにつながるという今回の調査結果を踏まえ、教科担任制を継続・拡大するとともに、学級担任についても一部でチーム担任制を導入し、その効果を検証し、子どもの幸せに向けて変わり続ける学校づくりをすすめます。